

星空プロムナード 暦 惑星 夏の星座案内  
 作花一志（京都情報大学院大学）

天の川が南北に流れ、流れ星に願いを託する季節です。ぜひとも都市光を避けて美しい星空を眺めたいものです。 満月 ○ 新月 ●

7月 July						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	○ 小暑 7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
土用丑 19	20	21 ●	22	大暑 23	24	25
26	27	28	29	30	土用丑 31	

8月 August						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	○ 6	立秋 7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	● 20	21	22
処暑 23	24	25	旧七夕 26	27	28	29
30	31					

9月 September						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	○ 5
6	白露 7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	● 19
20	21	22	秋分 23	24	25	26
27	28	29	30			

金星

ずっと明けの明星として日の出前に見えています。おうし座ふたご座しし座と移動し、9月 21 日にレグルスと接近します。

火星

日の出前の空で、おうし座ふたご座の間にいます。

## ☆ 星空プロムナード ☆

### 木星

天の川の東岸、やぎ座にいて、深夜東南の空に昇ってきます。7月中旬には海王星と0.5度まで接近します。

### 土星

レグルスとスピカの間にあり南天で最も明るい星で、前半夜見られます。現在、環は非常に細くなり8月11日と9月4日には全く見えません。

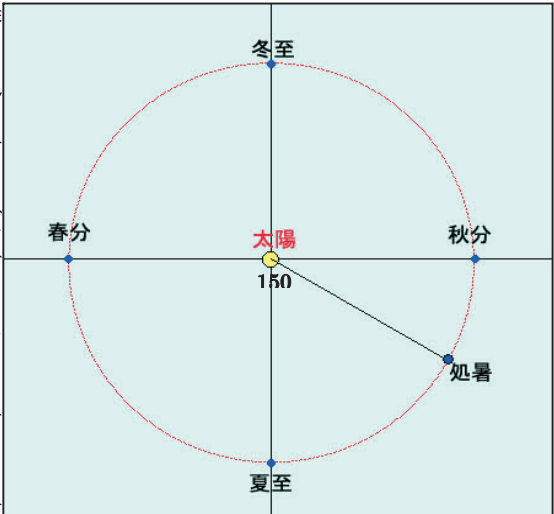
### 太陽

7月4日10時36分に地球が遠日点を通過(1.0166664天文単位)します。7月22日に今世紀最長の皆既日食が起こります。詳しくはp1からの特集記事をご覧ください。

### 旧七夕

七夕は天の川をはさんで離ればなれに暮らしている織姫と牽牛が年に一度出会える夜といわれ、中国では漢の時代から、日本では奈良時代から朝廷の伝統行事でした。ところが、7月7日は梅雨の末期で、なかなか星も見えません。七夕祭は本来旧暦で行われるもので、今でも旧暦の7月7日に近い8月7日に行っているところが多く、仙台七夕祭りは特に有名です。現行暦は太陽の運動だけを基準にしているのに対し、旧暦では1年は太陽を、1ヶ月は月の運行を基にしています。しかも何種類もあり現行暦に換算するのは非常に煩雑な計算を要します。

国立天文台では、2001年



から二十四節気の処暑(しよしよ)の直前の新月の時刻を含む日(日本時間)から数えて7日目を「伝統的七夕の日」としています。処暑とは太陽黄経が150度になる瞬間を含む日で、2023年までは8月23日です。これに従って今年の伝統的七夕の日を求めると8月26日となります。その頃には、梅雨も上がって天候も安定しているし、織女・牽牛ともに天高く眺めやす

いところにやってきますね。

### オルフェウスのハープ---こと座物語

織女星（ベガ）の属すること座には次のような物語が伝わっています。光と音楽の神アポロンと文芸の女神カリオペとの間に生まれたオルフェウスは生まれながらの音楽の天才でした。父から贈られた亀の甲から出来たハープ(豎琴)を奏でると、神や人はもちろん鳥も獣も聞きほれ、草木も枝を垂れるほどでした。オルフェウスは妻エウリデケと幸福に暮らしていました。ところがある日エウリデケが蛇にかまれて毒がまわりたちまち死んでしまったのです。オルフェウスは嘆き悲しみ、妻を追って死の国へやってきました。彼の奏でるやさしく悲しい琴の調べに獐猛な番犬ケルベロスもおとなしくなり、死の国の役人も心を動かされました。彼は死の国の王ハデスに妻を返してくれるよう必死に懇願します。ペルセポネ（春号で紹介した王妃）も涙で訴えたので、ハデスもついに「地上に戻るまで決してエウリデケを見てはいけない。」という条件付でオルフェウスの願いを聞き届けました。オルフェウスはエウリデケを従えこの世へ戻る暗くて長い道を歩きましたが、あと一歩で地上に着くというところでどうしても妻の顔が見たくなり、後を振り返ってしまったのです。その瞬間、エウリデケは死の国へ連れ戻されてしまい、二人は永遠に別れ別れになってしまいました(この部分は古事記に載っているイザナギ・イザナミの話とよく似ています。違いはその後イザナギ・イザナミは敵対関係になるのですが)。



地上に戻ってからのオルフェウスは一切の女性を近づけず、狂人のように野山をさまようようになりました。彼に惚れ込んだトラキアの娘は彼にふられたのを恨み、仲間と一緒にオルフェウスをズタズタに切り刻んで川に流してしまいました。ああこわっ！琴は悲しいメロディーを奏でながら、川を下り海を漂い、やがてレスボス島に着きました。島の人々はこれをアポロンの神殿に捧げました。ちなみにレスボス島はエーゲ海東部にある島で、女流詩人サフォー（前6世紀）の出身地として知られています。